

2020 年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用する子ども達の身体機能、運動発達に対応できるよう、一人ひとりが安全に過ごすための工夫を続けています。生活空間については、活動内容や利用児によって、また利用児数によっては、広すぎたり手狭だったりするため、ゲートやサークルの設置位置を調整し、グループ分けをして活動を行ったり、利用児に合わせ広い部屋に移動したりなど、対策を講じているところです。 ○ 療育室は、子ども達が心地よく過ごせるよう、清掃、消毒を毎日行うことで清潔を保っています。幼児用トイレの環境整備については、利用児の身体発達の状況や特徴に応じて柔軟に対応する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部屋をさらに区切って使用することで、自由度の高い場面、職員が分散しやすい場面で、子ども達が過ごす場所を分けました。見守り範囲が狭まり安全性が増しています。使用するゲートやサークルについては、稼働性を高めると強度が落ちるため、対策を続けていきたいと考えます。 ○ 子ども達の身体機能、運動発達に合わせて使用ができるよう、幼児用トイレに手すりを設置します。
II、業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の資質向上、法人内・施設内での役割遂行を目的とした施設内研修を、併設するこども園、訪問看護ステーションと合同で開催し、所内勉強会での伝達研修を行いました。次年度に向け、研修や勉強会の開催時間、開催回数を調整し、全職員が出席できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開催時間や職員配置の状況など、参加率と課題を整理し、全職員参加につながるよう、施設勉強会について年間計画を立てました。合わせて、必要に応じ所内会議等で伝達研修を行うことで不足を補います。
III、適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間計画に沿った月案・日案を職員全体で検討し、実践後の振り返りを毎月・毎日行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、一人ひとりの個別支援内容が十分に実現できる療育を提供するため、PDCA サイクルを円滑に回していきます。

	<p>○ 「児童発達支援ガイドライン」について、職員間での理解の差が見られました。ただし、ガイドラインの内容に関しては、実務を通して理解・実践につながっています。</p>	<p>○ 児童発達支援ガイドラインの個人配布を行い、特に、改めて全体で共有すべき項目を選出し、所内会議にて共有する機会を設けます。その中で、ガイドラインに対応している実務について、職員が実感できるようにします。</p>
<p>IV、関係機関や保護者との連携</p>	<p>○ 4月の開設以降、併設するこども園、訪問看護ステーションとの交流を図ってきました。緊急事態宣言下および、市内の感染状況により交流を停止する時期は少なくありませんでしたが、交流を通して得られた豊かな経験を振り返り、次年度に繋げていく準備を行っています。</p> <p>○ 今年度、医療、特にリハビリ機関との直接連携が十分に行えず、保護者を介した情報共有を主として行いました。次年度は直接連携（訪問、同行）を通じて、事業所内での特別支援の実践につなげていきます。</p> <p>○ 次年度就学を迎えるお子さんについて、関係機関と連携を図りました。保護者の不安や疑問に対応できるよう、就学予定先や教育委員会への確認と保護者への回答を速やかに行うよう努めました。</p>	<p>○ それぞれの事業や職種の強みを活かした施設運営に向け、3事業合同での勉強会を企画し、すでに始動しています。</p> <p>○ 保護者に同意をいただきながら、児童発達支援管理責任者および特別支援担当職員による直接連携やリハビリ見学等実施します。</p> <p>○ 引き続き、保護者の不安や疑問に対応できるよう、関係機関と速やかに連携を図ります。また、先輩保護者による、就学に向けた講話を頂く機会づくりについても計画中です。</p>
<p>V、保護者への説明責任等</p>	<p>○ お子さんの様子をお伝えする機会、またご家庭での様子や保護者の思いをお聞きする機会として、児童発達支援管理責任者による面談の他、クラス職員による面談も適宜実施してきました。クラス職員による面談については、周知不足もあってか、利用につながらないご家庭もあります。内容をお伝えし利用につなげていくことと、面談以外</p>	<p>○ 保護者アンケートを実施し、保護者の声をいただきながら、相談の機会や方法について、体制を整備します。</p>

	の共有の方法についても職員間で検討しました。	
VI、非常時等の対応	<p>○ 年間計画に基づいた避難訓練の定期実施を継続しています。有事の際に事業所職員が迅速に、より適切な判断をしながら安全確保に向けて行動することはもちろん、3事業が連携して子ども達の命を守る判断を行えるよう繰り返し様々な状況の中で経験を重ねてきました。まだ体験していない場面も多くあるため、避難のイメージが維持できるよう年間計画を作成します。</p> <p>○ 月次所内会議にて、身体拘束の有無を確認しつつ、必要に応じて虐待防止を目的とした対応検討を行っている。また、人の尊厳に立ち返りながら日々の業務にあたるよう、研修に参加した職員の報告を職場全体で共有している。</p>	<p>○ 施設防災訓練年間計画に基づき、事業所単独実施も組み合わせながら、よりバリエーションを持たせた訓練を行います。保護者参加型の訓練も引き続き実施していく予定です。</p> <p>○ 安全確保のための誘導や危険行為の回避に向けた対応について、職員間で話をしながら目的と方法を確認しつつ適切に行えています。</p>

(まとめ)

当事業所が、こども園や訪問看護ステーションと共に聖隷こうのとり富丘内にて運営を開始し、一年が経とうとしています。ご本人はもとより、ご家族にとっても安心・安全な施設づくりを3事業で協働して取り組んでまいりました。

この一年、ご心配やご不便をおかけしたことも多々あったと思いますが、皆様からは、いつも労いのお言葉、励ましのお言葉を頂き、職員一同大きな励みとなりました。改めて、私達職員も子ども達や保護者の皆様、地域の皆様に支えられていることを実感しているところです。次年度も、皆様のご意見やご要望をお聞かせいただき、関係機関と連携を図りながら、地域に根ざした施設運営を続けてまいります。

そして、これからも、子ども達が、自分らしく生活や遊びを楽しみながら豊かな経験を積み重ねていける事業所づくりに努めます。